



# 「第二次日本経穴委員会」便り

## ～第20回 江戸時代の経穴書～

第二次日本経穴委員会作業部会委員 香取俊光

本誌が読者の皆様に届いたときには、3月13日～15日に東京大学で開催される第6回国際経穴部位標準化非公式会議は終了していることと思います。早くこの会議の報告をしたいのですが、執筆上の都合で残念ながら間に合いません。昨年9月の大阪会議で討議し残した16穴も最終合意されていることでしょう。これまで、何回話し合っても合意できなかった経穴ですので、どんなドラマがあるのでしょうか。

10月下旬か11月上旬につくばで開催されるWHO国際経穴部位標準化公式会議までの日程も詰まっており、全員が集まって討議する機会こそ少なくなっていますが、その分、メーリングリストでの情報交換は、徐々に緊迫の度を深めています。

しかし、公開可能かつ読者の興味を引くような情報が少ないため、江戸期の古典の紹介第2弾をお送りします。

### 鍼灸抜粹大成」と未決定16穴

読者の皆様のなかには本郷正豊の『鍼灸重宝記』（医道の日本社）を読んだ方もおられることでしょう。江戸時代より鍼灸入門ハンドブックとして有名で、広く世の中に普及したものです。しかし、筆者は重宝記の原点であり、時代も古い『鍼灸抜粹大成』（『針灸典籍大系』15、

出版科学研究所）を重要視しているのです。残念ながら『抜粹大成』は、活字になっていないために利用される機会に恵まれていません。

本書は、岡本一抱（1654～1716）により、全3巻7冊として、元禄11（1698）年自序、翌年（1699）刊行されたものです。上之上、上之下は概論・診察（九針の図、寸関尺、祖脈、燃鍼の手法、打鍼の手法、管鍼の手法、鍼灸の禁忌など）。中之上、中之中、中之下は経穴編。下之上、下之下は治療編です。経穴のまとめ方は、經脈別ではなく、部位別にまとめられています。

本稿では、非合意16穴の中からいくつか紹介してみます。

まず、中国が瞳孔線上にこだわっている巨髎穴の記載についてです。

○巨髎 二穴、直ニ四白ノ下、鼻孔ノ傍八分ニアリ。蹠脈・足ノ陽明（胃經）ノ会。『銅人』ニ鍼三分、氣ヲエテ即チ瀉ス、灸七壯。『明下』ニ灸七七壯。病治、唇頬腫痛ミ、目盲シテミガタク、ビオウチ箔膜瞳子ヲ覆ヒ、脚氣膝腫ルヲ主ドル。

次の水溝穴は、「人中溝の真ん中」と「上1/3」との違いで合意できていません。

○水溝 一穴「一名ハ人中」、鼻柱ノ尖ノ直ニ下ニアリ。『素』注ニ鍼三分留ル事六呼、灸三壯。『銅人』ニ鍼四分留ル事五呼、氣ヲエテ瀉ス。『明堂』ニ灸三壯ヨリ二百壯ニ至ル。病治、

シウカツ  
消渴シテ飲水度ナク、水一身腫、中風、口噤、  
牙闇ヒラカズ唇動テ虫ノ行ガ如ク、或ハ悪鬼ニ  
オソワレ一切頓死ヲ主ル。

次は、大きく位置が変更になりそうな労宮穴と環跳穴についてです。

○労宮 二穴「一名ハ五里 一名ハ掌中」、掌ノ中央、動脈ノ中、即チ中指ト無名指ト居テ其両指ノ頭ノ当ル間ニ点ズ。『銅人』ニ灸三壯。『明堂』ニ鍼三分、氣ヲ得テ瀉ス。只刺事一度、両ビ刺ハ人虚セシム。禁灸、若灸スレバ息肉日ニ生ズ。病治、大小便ニ血ヲ出シ、大小人口中腥ク、小兒齶爛ルヲ主ドル。

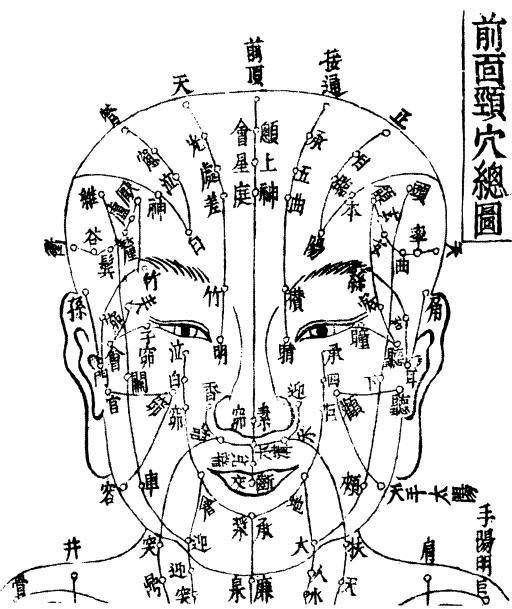
○環跳 二穴、髀枢ノ中、マツ此穴ヲ取ニ病人ヲ側臥シメ、下ノ足ヲ伸、上ノ足ヲ屈テ股ノ腹へ胞付レバ、股ト腰トノニ折ル横文ノ頭、筋骨ノ解メニ点ズ。『素』注ニ鍼一分、灸二壯。病治、一切ノ痺症、腰ノ痛ミ、附骨疽ヲ主ドル。

最後に、合意への最大の難関が足三里穴で、胃經の経穴が決まります。

○三里 二穴、骻ノ外側、膝蓋ノ下三寸。骻ト筋トノ間ニ点ズ。『銅人』ニ灸三壯、鍼五分。『明堂』ニ鍼八分、灸七壯ヨリ百壯ニ至。『千金』ニ大ニシテ五百壯。少ニシテ三百壯。病治、心腹張満、水腫、便血、胃氣虛弱ニシテ不食。上氣、目眩、蟲毒、産後ノ血上ニテ人事ヲ知ザルヲ主ドル。▲『外台秘要』ニ年三十已上、若三里ニ灸セザレバ、氣上テ目ニ冲シム。其四花・膏肓・百会等ニ灸セバ、後ニ三里ニ灸セヨ。▲秦承ガ云、諸病ヲ治ス。▲華佗（109?～207?）ノ云ク、五分、羸瘦、七傷虛之瘀血、乳癰ヲ治ス。

### （杉山流）鍼術十箇条」の経絡図

杉山和一（1610～94年）の鍼術を継承したものに杉山真伝流が有名ですが、これ以外に杉山流・石坂流・栗本流等が存在します。杉山流の



張介賓『類經図翼』より

秘伝書『(杉山流) 鍼術十箇条』(『臨床鍼灸古典全書』8、41～74頁、オリエント出版社、1989年) があります。内容は、伝承者・秘伝の十箇条、それに続いて次の二文があります。

早引十四経穴名左ニあらわす（表す）所の経穴ハ、我ゑらみ（選び）あらたむる（改める）所ニあらす（非ず）。古くよりづ（図）する所也。あやまり（誤り）在べし。前々在所の針灸書ニ合せ見べし。

この後に十四経の図が付されています。肺經～督脈・任脈と14経の流注順に経穴図が書かれています。さらに主治が入った図が3枚続きます。主治には「キツケ」の文字が目立ちます。

今後も、本資料を始めとした江戸時代の有用な資料を翻刻していきたいと思っています。

（〒371-0805 群馬県前橋市南町4-5-1）